

ITU-R SG5 WP5D会合(第28回)結果

総務省 移動通信課 課長補佐 **村井 遊**



1. はじめに

ITU-R第5研究委員会 (SG5: Study Group 5) の傘下の作業部会 (WP: Working Party) のうち、IMT (International Mobile Telecommunications: IMT-2000、IMT-Advanced、IMT-2020及びそれ以降の無線インタフェース技術を含む) を所掌するWP5Dの第28回会合が、2017年10月3日 (火) から11日 (水) にかけてドイツ (ミュンヘン) において開催されたので、本稿ではその概要を報告する。

2. 会合概要

各国主管庁、標準化機関、事業者、ベンダーなど、34か国及び43の機関から合計約230名の参加があり、日本代表团として17名が参加した。本会合では、前回会合で次回審議とされた文書を含む、文書98件 (共同寄与文書を含む日本からの本会合提出寄与文書10件を含む) を審議し、外部団体へのリエゾン文書を含む59件の出力文書を作成した。今般の会合は、引き続き、3つのWG (WG-General Aspects、WG-Spectrum Aspects、WG-Technology Aspects) 及びAH-Workplan体制で検討が行われた。

3. 審議経過

3.1 一般的審議事項 (WG-General Aspects関連)

①MTCに関する検討 (WRC-19議題9.1 課題9.1.8関連)

MTCに関する新報告草案M. [IMT.MTC] の作成において、前回会合と同様に700MHz帯の一部 (2 x 3MHzの周波数配置) をMTC用に特定を目指すアラブ首長国連邦を含むアラブ諸国とその他の国々の間で議論がなされ、特にスペクトラムの検討の章に関するテキストについて種々議論があり、次回、更に議論することとした。このため、今回合会への入力寄与文書が全てキャリアフォワードされた。

②IMT導入事例集作成 (新報告草案M. [IMT.EXPERIENCE] 関連)

当該作業文書の記述対象範囲に関するタイトルの見直しと明確化の審議に長時間を費やし、「ある周波数

帯が移動業務に割り当てられ、かつIMTシステムに特定される国の技術、運用及び制度手続きに関する経験」というタイトルで合意した。内容については次回合会から議論することとなった。

3.2 周波数関連事項 (WG-Spectrum Aspects関連)

①周波数アレンジメント (勧告M.1036改訂関連)

前回会合よりIMT非特定帯域へのIMT導入に関するテキストの扱いについて議論となっていたが、今回合会においても当該テキストの削除を主張するイランと、それに反対する国々との間で合意に至らず、複数案併記の状態にて次回合会にて継続議論されることとなった。

また、Lバンド (1.5GHz帯) のFDD向けの周波数アレンジメントについて、日本より、一部のアフリカ諸国提案のアレンジメントを削除し、日本提案のアレンジメントに統合する提案を行ったが、オフライン議論の結果、アフリカ諸国提案を修正する妥協案 (上下送受信周波数間隔を日本提案に揃える) に合意し、作業文書に反映した (これにより、両アレンジメントが同一端末で実現可能)。

②1.5GHz帯IMT/BSS両立性検討 (WRC-19議題9.1 課題9.1.2関連)

IMT保護のためにBSSへの規制を提案している日本及びフランスと、同規制に懸念を示す中国との間で活発な議論が行われた。新報告草案及びCPMテキスト案に向けた作業文書を日本提案も含まれる形で更新し、次回合会で継続議論されることとなった。また、WP4Aへ更新した作業文書を情報として提供するリエゾン文書を発出した。

③TG5/1関連事項 (WRC-19議題1.13関連)

TG5/1からのリエゾン文書 (EESS (地球探査衛星業務) との共存検討の暫定結果) 及び3GPPからの回答リエゾン文書 (不要輻射の実現レベル) への対応について議論が行われた。本会合中にTG5/1からのリエゾン文書に基づき3GPPへ更なる検討を依頼するリエゾン文書を作成、発出する方向で議論が行われたが、リエゾン文



書案の記載内容について全会一致の合意に至らず、本会合での3GPP及びTG5/1へのリエゾン文書発出は見送られた。

3.3 技術関連事項 (WG-Technology Aspects関連)

①IMT-2020無線インタフェース関連事項

IMT-2020無線インタフェースの評価手法について、中国から入力された誤記訂正等の寄与文書に基づく修正案を合意し、前回合意した新報告案M [IMT-2020.EVAL] に技術的変更を含まない誤記訂正のみを行った修正案をWP5D総会で採択し、前回提出文書の差替えとしてSG5に上程した。

また、IMT-2020無線インタフェース技術提案をITU-Rが受けた際の受領様式を、日中韓共同寄与文書で提案し、受領様式策定へ向けた作業が開始された。

②IMT-Advanced関連事項 (勧告M.2012改訂関連)

IMT-Advanced詳細無線インタフェース勧告ITU-R M.2012の第3版に向けた勧告改訂案を今回会合で完成し、採択を求めてSG5に上程した。

3.4 IMT-2020ワークショップ

会合2日目にIMT-2020ワークショップが開催され、WP5D関係者からのIMT-2020無線インタフェース標準化手順の紹介、及び技術提案予定者や外部評価団体からの関連す

る情報共有などが行われた。日本からは5GMFが外部評価団体として参加し、日本の5G導入へ向けた取組み及び評価団体としての状況等について紹介を行った。

4. 今後の予定

WP5D第29回会合は、韓国（ソウル）にて、2018年1月31日（水）から2月7日（水）に開催予定となっている。また、第30回会合はメキシコ、第31回会合は日本で開催予定である。

5. おわりに

今回合会に入力した日本寄与文書は基本的に全て反映されている一方で、様々な場面で議論が長時間にわたり、文書の審議及び作成作業が進捗しない状況も見られた。今後、第2回CPM会合や2019年世界無線通信会議（WRC-19）に向けて決定すべき事項が増えてくるため、また、次回合会以降にIMT-2020無線インタフェースの入力も想定されることから、日本として不利益が生じないように継続的に議論に関与していく必要がある。

最後に、会合前の寄与文書作成検討、本会合にご出席いただき長期間・長時間にわたる議論へのご参加やご支援について、日本代表团各位、ARIB等関係各位には、この場を借りて御礼申し上げます。今後の審議に向けての更なる御協力をお願い申し上げます。